



神奈川県知的障害者施設保護者会連合会 ニュース第112号

神奈川県知的障害者施設保護者会連合会 広報部会



第57回定期総会報告

神奈川県施保連会長就任挨拶 甲山謙一

総会は杉山副会長(総務)の司会で進められ、議決権の個数確認で、代議員総数49名(過半数以上で成立)委任状を含めた出席者が44名で総会は成立。
大矢会長の挨拶に続いて佐々木哲彌議員(恵和たちばな会)を議長に選出後、議事に入る。

◇第1号議案

【令和6年度活動報告】
杉山副会長より報告があり賛成多数で承認された。

◇第2号議案

【令和6年度決算書】
細谷会計担当より決算報告の説明後、水谷監査役から監査報告があり、賛成多数で承認された。

◇第3号議案

【神奈川県施保連会費制定細則新旧対象表(案)】
大矢会長より説明、報告があり議場に諮った処、一部に反対意見があったものの賛成多数で承認された。

◇第4号議案

【令和7年度活動計画(案)】
甲山副会長より活動計画の説明、報告があり賛成多数で承認された。

◇第5号議案

【令和7年度予算書(案)】
荒井会計担当より説明後、議場に諮った処、賛成多数で承認された。

又、会費については、8月末を目処に振込要請があり、領収書の発行に関しては理事会で承認を受けPDFで発行とするが、メールでの受取が不可の場合は、郵送とする。

◇第6号議案

【令和7年度神奈川県知的障害者施設保護者連合会 役員・理事候補者(案)】
大矢会長より説明後、議場に諮った処、賛成多数で承認された。

◇議長解任

最後に会長から顧問に選出された大矢前会長より挨拶、新たに会長に選出された甲山新会長より抱負が述べられ閉会した。

令和7年7月27日に開催された第57回神奈川県施保連定期総会におきまして会長に就任いたしました甲山謙一でございます。



新会長には若手のホープをと願っていた者として、高齢の自分が会長職につく事には内心忸怩たるものがありました。会長職をお引き受けする決心がついたのは、大矢前会長の熱心なお勧めともう一つは新一万円札の渋沢栄一翁の晩年のお姿でした。

渋沢栄一翁を引き合いに出すなんて月とすっぽん、提灯に釣り鐘、雲泥の差、身の程知らずと言われるのは百も承知ですが、兎の角私の心に刺さったのです。渋沢栄一翁は「日本資本主義の父」と言われ、興じた会社は500以上と言われている。

「論語と算盤」「道徳経済合一説」を唱えた渋沢ですから、社会

福祉事業にも積極的にかかわりました。知的障害児の保護教育機関である(財)滝野川学園理事長もなさいました。療育院の事業にはなくなるまで心を砕いたそうです。

渋沢は76歳になった時に、実業界から完全に引退し、社会福祉事業に専念しました。76歳という高齢ですが、天保11年(一八四〇年)生まれですから当時の平均寿命は50歳くらい、現代と比較にならない高齢ですが、渋沢がどの程度、実質的な社会福祉事業活動をおこなおうとしていたのか、その心意氣を表現する有名な言葉があります。へ四十、五十は涙垂れ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えが来たら、百まで待てと追いつ返しと語ったと伝えられています。その渋沢も91歳で他界しましたが死ぬ間際まで貧民救済のために国家予算の執行に尽力したそうです。

家族会の高齢化問題に悩む私たちですが、渋沢栄一翁の心意氣を見習うべきと改めて感じ入っている次第であります。時代も、今や百歳時代に突入です。



私の学生時代のゼミの恩師は、神奈川県知事を昭和50年から平成7年まで、5期務めた長洲一二先生です。先生は「神奈川県は日本の縮図だ。産業構造そのものが日本の縮図だから。東部に重工業地帯。横浜は輸出港。西は豊かな農業地帯と国立公園の観光地。」

ここで長洲先生に倣って私見を言わせていただければ、障害福祉分野で言うなら、神奈川県は日本の縮図というか、障害福祉の問題の先鋭化・最前線県ではないでしょうか。その事象は次の通りと考えます。

【先鋭化事象】

その1)

二〇一六年七月二六日県立津久井やまゆり園で元職員植松聖が入所者19人を刺殺、入所者・職員26人に重傷を負わせた事件。「意思疎通できない重度の障害者は不幸且つ社会に不要な存在であるため重度障害者を安楽死させれば世界平和につながる」という思想。障害者人権擁護隊躍という思想。コスバ優先の価値観等様々な問題思想です。

太平洋戦争後最大の殺人事件が契機になり、神奈川県は当事者目線の障害福祉推進条列とともに生きる社会を目指して、に基づく基本計画を二〇二四〜二〇二九年度にわたって実施。この計画策定は画期的と評価すべきだと小生は考えます。常にそうですが、計画より実行、実行より成果がさらに重要。出来るだけ多くの県民が参画、実行、成果を上げられるよう、神奈川の福祉の輪の一端を担いましょう。

その2)

父を追い詰めた障害者施設の入所待ち問題。千葉県長生村での知的障害者の次男殺人事件におよぶ。事件発生は千葉県だが、原因は神奈川県西部での入所待ちがかなわず殺人事件に及ぶ。裁判官は社会的課題とし、執行猶予判決。NHK調査によれば入所施設待機者は二〇、〇〇〇人。この中から起きた先鋭的事件。重度知的障害者は入所施設への入所を望んで待機しているが、行政の対応は入所待機者調査は不十分、地域移行の名のもとにグループホーム主体の対策ですれ違いを起こしていました。県も待機者調査に乗り出し始めました。着実な問題解決を望みます。

その3)

中井やまゆり園86人中、車いす利用24人(28%)、低栄養状態9人低栄養の疑い27人合計36人(42%)、白内障42人(49%)、という健康状態。フレイル予防が必要との結論。県議会でも取り上げられ、黒岩知事も問題解決に積極的に取り組むとのこと。知的障害者の健康医療観点として、知的障害者が健常者より高齢化が早く起きるといふ特徴があり、40代からフレイル予防を行うことが長期最適健康医療対策となります。そのため予算措置、人材育成、ノウハウ開発その伝播が必要となります。

その4)

意思決定支援は国連人権擁護の観点からも重要視されています。津久井やまゆり事件の影響で神奈川県が一

歩先行してはいるが、課題の性格上、難易度が高いと言われています。まず私たちが学習すべきと考えます。

その5)

障害者の人権擁護のために成年後見人制度が誕生したが全国的に普及率は低く、人権擁護のニーズを満たしているとはいえない。そのため法務省は現行制度の使い勝手の悪さを明確にし問題解決のために法改正を踏まえての対策を専門家に諮問し、二〇二六年度に答申が行われる予定です。

以上、5項目のうち1〜4が神奈川県先鋭化事象です。神奈川県保連としても当事者意識をもって取り組んでいきたいと存じます。皆様のご指導ご鞭撻よろしくお願ひ申し上げます。

以上



写真・会長を退任された大矢武久氏 顧問に就任された大矢武久氏

知的障がい児者・発達障がい児者(自閉症児者を含む)の生サポは 家族の安心を支えます

当会にご入会いただくと、知的障がい児者、発達障がい児者(自閉症児者を含む)のための病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

AIG損保の普通傷害保険 生活サポート総合補償制度

■担当代理店・協賛者
株式会社 ジェイアイシー
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新雀三井ビル2号館2F
TEL: 03-5321-3373 FAX: 03-5321-4774
受付時間: 午前9時〜午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社
AIG損害保険株式会社
https://www.aig.co.jp/scrpo
東京第二プロチャネル営業部
〒105-0502 東京都港区虎ノ門4-3-20 初音町MTビル15階
TEL: 03-5401-3650
受付時間: 午前9時〜午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

- 日常生活に関する相談支援
 - 就業に関する相談支援
 - 権利擁護に関する相談支援
- の3事業を実施しています。

主な補償内容		
病気やケガで入院したとき 入院給付金 <small>※プランによって異なります</small>	病気で死亡したとき 養老費等費用保険金 <small>※プランによって異なります</small>	虐待・逮捕・拘留に対応するとき 弁護士費用等補助金 <small>※プランによって異なります</small>
ケガをしたとき 死亡・後遺障害・入院・通院・手術・各保険金 <small>※火災・震災によるケガも対象</small>	賠償責任を負ったとき 個人賠償責任補償	就労中に他人にケガをさせたり物を壊してしまったとき 賠償責任等申請対応費用等補助金 <small>※プランによって異なります</small>

※上記は概要です。詳細は下記までお問い合わせください。
特定障害者福祉団体障害者保険特約、弁護士費用等補償特約、職業従事者事故対応費用補償特約、地震・火災・運送危険補償特約(ネット)

保険のお問合せはこちら

ご入会のお問合せはこちら

一般社団法人やまゆり知的障害児者生活サポート協会
〒221-0825 神奈川県横浜市中区神奈川4反33丁目17番2号
神奈川県社会福祉センター5F
TEL: 045-314-7716 FAX: 045-224-0426
http://y.orisapo.jp/ir/dex/qfn.php